

奨学金制度

国名	対象	支援期間・金額	開始年度	奨学生	
				2017	2018
アジア					
スリランカ	成績優秀ながら貧困家庭の高校生、大学生、専門学生	高校生：年間 12,000 円を原則として 2 年間 大学生：年間 22,000 円を卒業まで	2002 年 11 月	24	26
アフリカ					
ガンビア	成績優秀で就学継続困難な中学 1 年～高校 3 年	中学生は年間 7,000 円、高校生は年間 15,000 円	1995 年 9 月	68	67
ザンビア	優秀だが貧困のため学費の払えない国立デビッド・カウンダ・テクニカル・ハイスクールの生徒	年間 60,000 円を学費と寮費として、3 期に分けて支援。	2013 年 9 月	10	3
中東					
ヨルダン	大学生	年間 500,000 円	2001 年 11 月	14	12
パレスチナ	イゼルディン・アブエライシュ医師が創設した「ドーターズ・フォー・ライフ財団」が支援するパレスチナ出身の女子大学生	2017 年に 8,000 ドルを財団に寄付。			

その他実施国：ウガンダ、モーリタニア

里子たちの感謝の声



ルワンダ

ニューホープ技術専門学校卒業生で三角弘子さん（WFWP 福岡第 1 連合会、写真右）の 2 人の里子が、2018 年 10 月 19 日に開催された「ニューホープ技術専門学校創立 20 周年記念式典」にて、卒業生を代表して感謝のメッセージを里親の三角さんの前で述べました。

ウィネジア・イマキュリー（中央）

「内戦で両親を亡くし、虐殺孤児となり、夢も希望もなかった時、ニューホープ技術専門学校の学費支援のおかげで入学でき、卒業し、レストランのシェフを任せてもらうようにまでなりました。その後結婚して、家

族の支援もできるようになりました。この支援のおかげで、虐殺後孤独だった私に生きる自信を与えてくれ、考えもしなかった将来を描かせてくれました。学校が私を支えてくれたように、今度は私が学生たちに学外実習の機会を与えてあげることができるよう支援したいです。」

ニシムウェ・ジャン（左）

「虐殺で両親を亡くしましたが、何とか生き残り、故郷に帰って、修繕した家に住んでいると、家族を殺した敵民族が、故郷に帰ってきました。僕が家の中にいる時に、家を焼かれました。何とかそこから生還し、しばらく入院して、ようやく退院。唯一の親族のおばさんのところに行くと、その夫から同居を断られ、行く当てもなくストリートチルドレンとして生活していました。その時に、ニューホープ技術専門学校の前学長に町で出会い、『現状から抜け出すために学校に来て勉強しなさい。』と言われ、里親に支えられ、何とか卒業し、自分で起業することができました。ニューホープの支援がなければ今の自分はありません。」

現在は、VIP なども相手にするやり手の美容師に成長した。在学中唯一の頼りだった里親の三角さんの写真を携帯の待ち受けにして大事にしている。